

学生育てる岡大の教育力

主体的な学び

人間力育成

特集
Special Section

- 卒業生その人に聞く 岡 博子 さん パラリンピック
卓球日本代表コーチ
- 研究室訪問 妹尾 昌治 自然科学研究科(工) 教授
iPS で「がん幹細胞モデル」作成
- きらり岡大生 湯川 棕也 医学部 4年・三俣診療班
山岳診療ボランティア
- ホームカミングデー 2012 開催
「第1回国際学都シンポジウム」開催
岡山大学病院が肺移植 100 例を達成
- News & Topics 大学の動き
- 岡山大学公式 Facebook ページを開設しました!





もう一つはキャリア教育。2010年8月に開設したキャリア開発センターは就職支援のためだけのものではない。キャリア教育とは人間形成のことであり、講義などを通じて社会人となるための意識作りをするのが目的。大学生活は長いですが、実際には3年次に就職活動が始まってしまふ。人間形成には時間がかかるので、研究者や社会人として将来への目的を持たせるためには初年次からの教育が非常に重要。必修化も検討していきたい。

正課外活動も学生の主体性を育てる上で大切。国立大学は施設充実に予算をあてづらいう中、今年度は体育系サークル棟とトレーニング施設を新設し、さらに文化系サークルが使用するBOX棟も大幅に改修・リニューアルさせる。正課外活動は好きな活動を通じて人間力を磨くことができ、学部の垣根を取り払った人間関係も構築できる。今は学生組織である校友会の強化に向けた

岡山大学に入学した学生は、4～6年間かけてさまざまな能力を獲得する。教養教育をはじめとし、国際舞台で活躍する人材を養成する「言語教育」、研究者や企業人など社会で必要とされる人材を生み出す「キャリア教育」、さまざまな人間関係を育む「正課外活動」など、岡大の充実した教育環境がそれを支えている。阿部宏史教育担当理事に、岡大が目指す「教育」について聞いた。

学生育てる岡大の教育力 特集 Special Section

「主体的な学び」で 人間力育成

Executive Director ▶ Abe Hirofumi



対応を検討している。現在、岡山大学では全学同窓会について議論がなされているが、校友会も在学生・卒業生のつながりを生み大学を支える力となる。正課外活動支援を通じ、岡大を愛する心を育てたい。

―大学生の「教養」を問う声が大い。
岡山大学の「教養教育」とは。

岡山大学では担当部局であった教養部が平成6年度になくなり全学化。責任部局がなくなった多くの大学で教養教育が迷走したが、岡山大学では今、教養教育の改革を検討している。特に英語教育、リベラルアーツ再構築が主眼。豊かな教養を身に付けるためには

―岡大の教育理念とは。

大学の理念として「高度な知の創成と的確な知の継承」を掲げており、「知の創成」は研究、「知の継承」が教育に当たる。大学にとって教育と研究は不可分の関係にあり、学生は研究室に所属し教員とともに研究を行うことで、「知の創成」に深く関わる。

大学は社会人になるための人格形成を行う最後の教育機関である。卒業後に自立した行動がとれるよう、自身自身を高める意欲を身につけさせるのが使命だ。かつてはサークル活動やアルバイトを通じてリーダーシップを身につけていけば十分、という風潮もあった。しかし最近では大卒人材に即戦力を求める傾向があり、きちんと勉強していることは必須条件。学力、リーダーシップ、研究や社会活動への意欲などさまざまな要素を兼ね備えた人材を輩出しなければならない。

地方大学である岡山大学は大都市の大学とは異なり、岡山県内、中四国が

現在の必要単位数は少ないが、単純に単位数を増やせばよいという問題でもない。専門教育前の1、2年次限定ではなく、「4年間かけて学ぶ」と考え直す必要がある。特に専門科目と同時に得る教養は重要。教養教育は生涯にわたる継続のものであり、出発点となる大学時代にあらゆる分野への興味を持たせることが必要だ。

改革に向け動いているのが英語教育。大学は留学生や外国人教員が多く在籍し、英語を実際に使いやすい環境にある。まずは必修科目数を倍増させるなどカリキュラム強化を図り、コミュニケーション応用力を入れるために「イングリッシュ・カフェ」を活用。来年



必要とする人材ニーズに 대응するという教育目的もある。11学部7研究科で「知」を集積する総合大学として、中四国のクロスポイントに位置する地の利を活かし、グローバル思考を持ちながらローカルニーズも両立させることが必要だ。

―教育理念を実現させるための教育の特色は。

今年8月の中央教育審議会答申で「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」という方針が打ち出された通り、学生に主体的に学ばせることを重視している。

特色の一つとして学生参画型FDがある。学生と教員の双方向コミュニケーションを狙いに、2001年度に学生・教職員教育改善専門委員会を作り、学生の発案から新たな授業を作る取り組みを実施。この授業は全国でも先進的なモデルとされているが、始まって十数年たつことから絶えず改善していく必要がある。

4月をめどに現在の場所から移転、約3倍にスペースを拡大して機能を充実させる予定だ。学習成果を確認するため、現在は入学時に1回のみ受験するTOEICを、1年次の冬、2年次の終わりとも最低でも計3回に増やすことも計画中。学生にとっても目標を設定することで到達度が分かり、特に2年次の結果は就職活動でもアピールポイントにもなる。

―教育を通じ、どのような人材を輩出していくのか。

理想の人物像を押しつける教育ではなく、学生自身が「なりたいたい姿」を目指すのをサポートするのが大学の使命。言語教育を含む教養教育、初年次中心のキャリア教育に加え、昨年度からは若手研究者キャリア支援センター（通称・ドクターキャリアサポーター）も開設し、長期インターンシップなどを通じて社会とのつながりを強化している。初年次からポストドクターまで手厚くカバーするのが岡山大学の教育支援だ。国立大学が変化してきている今、岡山大学の力量が問われている。教育力、研究力いずれにおいても社会に対して成果を示す必要がある。大学教育における一番の成果は卒業した学生。「なりたいたい姿」を実現した意欲的で優秀な人材を送り出すことが、岡山大学の名を高めることにつながる。



▲「キャリア形成」の授業でグループワークをする学生

阿部宏史理事がいずれもセンター長を務める「キャリア開発センター」と「若手研究者キャリア支援センター」。初年次からポストドクターまで岡大生のキャリア形成を手厚く支え、社会における自己実現力を養う要となっている。「キャリア教育＝職業訓練という誤解から、『大学がやるものではない』という批判も受ける。実際はそうした狭い意味の教育ではなく、早くから社会との接点を持たせ大学で学ぶ動機付けにつながる教育だ」と阿部理事は強調する。

キャリア教育 CAREER EDUCATION 社会で生きる 自己実現力

カレッジを通じた学び。主に3、4年次対象の授業では実際の企業の動向、ニュースの読み解き方、ベンチャーの起し方、英文でのプレゼンテーションなどを学ぶことで、より社会とのつながりを深め、即戦力となるスキルを身に付ける。さらに、グローバルにもローカルにも対応できる人材を育てるため、地元企業や海外大学など幅広いインターンシップを提供している。

若手研究者キャリア支援センターでは、ポストドクターに3〜10か月の長期インターンシップを提供するほか、博士人材を求める企業関係者を招いて講義やセミナー、交流会を実施。社会で即戦力となる優秀な博士人材と企業を結びつけることを支援している。



▲現在のイングリッシュ・カフェ

岡山大学の言語教育は変化の時を迎えている。国際的な「学都」を目指すため、大学として「グローバル人材育成」をさらに強化していく方針を打ち出し、さまざまな改革に着手する予定だ。

大きく変わるのは教養教育の英語カリキュラム。現在卒業に必要な英語単位数は4科目8単位だが、2013年度からは8科目8単位と必修科目数を倍増させる。科目内容も充実させるため、1年次はスピーキング、リーディング、ライティング、リスニングに分けて学習。2年次はプレゼンテーションなど専門分野で英語を活かせる内容を強化した上で、さまざまな教材を活用して行う自律学習コース・eラーニング学習コースなど、学生の自主的な学びを促す科目も提供していく。カリキュラム充実の狙いについて、言語教育センター長でもある阿部宏史教育担当理事は「日本人は英語学習に時間をかけているのに、話すのは下手な国民。これは文法中心で、使えない。英語を勉強しておらず、英語を使うことに抵抗感があるから。大学として実践の場を設ける必要がある」と語る。大学の教育部門と国際部門が連携し、入学者の一部を選抜し独自カリキュラムで英語力を強化する「グローバル人材育成特別コース」の新設も決定している。

語学教育充実には欠かせない自律学習や外国語会話実践の場として、大

言語教育 LANGUAGE EDUCATION 英語力強化し 世界で活躍

な役割を担うのが外国語カフェ。現在、学生会館1階にある「イングリッシュ・カフェ」(115㎡)を、13年度からは一般教育棟A棟別館1階にある「WAKU² (ワークワーク) スクエア2」(334㎡)の場所に移転させ、幅広い言語が集う場として機能を拡大する。「カフェ利用者が年々増え、広いスペースを要望する声が多かった」と話すイングリッシュ・カフェを担当の宇塚万里子・言語教育センター准教授。移転によってグループ学習や30人程度のセミナー型授業ができるスペースも設けることで、「フリートークをしたい人



移転先の WAKU² スクエア2

正課外活動 CLUB / CIRCLE 新施設で サークル力強化

岡山大学の広大なキャンパスには、学生のサークル活動を充実させるさまざまな施設がそろっている。今年度は施設の新設・改修が相次ぎ、学生にとってもさらに活動しやすい環境が整いつつある。

津島地区の東端、サッカー・ラグビー場南側には「校友会トレーニング棟」(延べ床面積523㎡)と「校友会体育系クラブ棟」3棟(同194㎡)を新設し、11月末に建物完成。トレーニング棟にはこれまで第二体育館2階で使用していた「筋トレ」機器を移動させ、ウエイ



▲校友会トレーニング棟



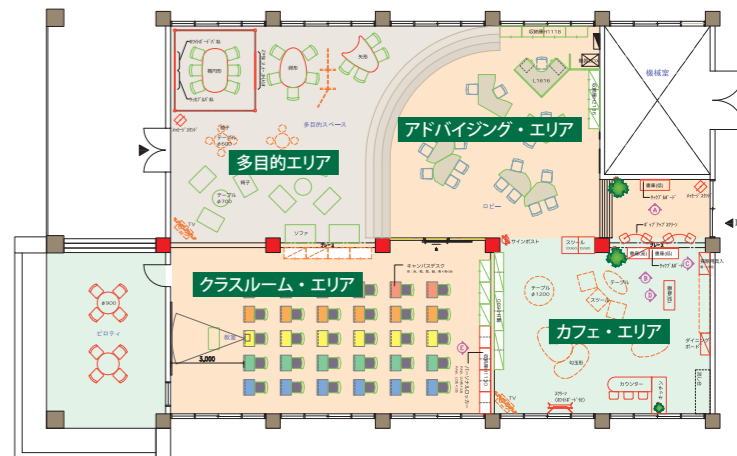
▲校友会体育系クラブ棟

トトレーニング部を中心に体育系サークルが利用しやすくなった。クラブ棟は、いずれも2階建て各10室の部室があり、これまではばらばらだった体育系サークルの部室を1カ所に集約した。

また通称新BOX棟と呼ばれるサークル共用施設も改修し、「校友会文化系クラブ棟」として生まれ変わる予定。主に2階に防音設備などを設け、音楽系サークルの練習もやりやすくなる。体育系、文化系のクラブ棟がはっきりと分かれることで、大学に不慣れな新生にも使いやすくなりそうだ。

も、じっくり自習をしたい人にもオープンスペースで対応しやすくなる。今まで利用をためらってきた人にも使いやすくなるはず」と期待する。

イングリッシュ・カフェ跡地は自習・談話スペースに模様替えする予定。また、多くの学生が自主学習に利用している「WAKU² スクエア2」が移転に伴いなくなるについては、「一般教育棟内などに代替地の確保を検討している」と阿部理事。「さまざまな自主学習スペースを提供することで、学生自身が自主的かつ意欲的に学ぼうという気持ちに呼びかけている。



▲移転後のイングリッシュ・カフェのイメージ



選手の特性つかみ 世界へ

パラ五輪は特別な場所

パラ五輪は単なる国際大会とは違う特別な場所。一度参加すると「ぜひもう一度」という気持ちになり、ちよつとした「中毒」になります。出場選手は普段の国際大会でも対戦する相手ですが、五輪に合わせて技術や体調、モチベーションを最高潮に上げてきているので試合の雰囲気は一変。今回のロンドン大会もレベルが格段に上がり、ちよつとしたきつかけで簡単に状況がひっくり返るような、最後まで気が抜けない試合ばかりでした。

私自身は肢体不自由者部門の代表コーチとして参加。約3週間の滞在中、試合では選手にアドバイスを行ったほか、現地の担当者との打ち合わせや本部とのやりとり、タイムテーブル管理、選手村での生活面などトータルで選手をサポートしました。

コーチよりも「便利屋」

代表コーチの立場ですが、実は卓球の専門家ではありません。普段は岡山市障害者体育センターで仕事をしています。このセンターは障がい者が優先的に使えるスポーツ施設。競技の準備や片付け、車いすの乗り降りのサポート等を行い、大会や講習会などの運営をしています。

中学から大学まで軟式テニスに取り組み、卓球の選手経験はゼロ。卓球に興味を持ったのは結婚がきっかけでした。車いす卓球選手の夫（国内第一人者の岡紀彦選手）がセンターを練習場所にしていたことが縁となり結婚。練習相手などを務めるうちに卓球との関わりが増えていきました。技術が優れているわけではないのに代表コーチになれたのは、今までに60回ほど夫の海外遠征に同行し、知識や情報をたくさん持つていたからだと思えます。コーチというより「便利屋」という表現がぴったりでしょう。

国挙げ組織的に強化を

パラ五輪出場には世界ランキング上位に入る必要があります。2011年はロンドン大会出場をかけた重要な年だったので、7回海外遠征に同行しましたが、パラ五輪など特別な大会を除き、遠征費用はほとんど「自腹」。実力があっても費用や時間がなければ、世界ランキングに反映される大会に出場すらできません。ロンドンで感じたのは、国を挙げて障がい者スポーツを強化している国が急速に増えてきていること。日本は先進国の中でも遅れており、取り組みの差を痛感しました。資金面はもちろん、

指導者や練習環境などのフォローが必要です。外国では、健常者と障がい者のアスリートが合同でトレーニングできる施設があったり、近年急速に強くなっている中国や韓国には障がい者向けの強化施設ができたと言われます。世界の流れは、選手個人の努力だけでは太刀打ちできない状況になっています。ほとんどの選手が普段の仕事や生活と両立して競技に取り組んでいます。もっと国や協会などが選手を組織的に強化する体制にしていけることが急務です。

「基本」はあてはまらない

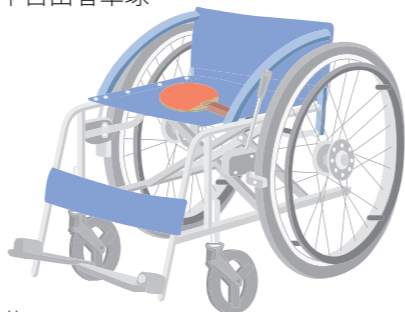
ロンドン大会を経て、選手強化には障がい特性の理解とあわせて細やかな技術指導をすることが必要だと思いました。障がい者ということと、同じ卓球選手であっても身体や精神の状態は一人一人全く異なります。卓球の「基本」が全ての選手にあてはまるとは限りません。一人一人の選手の特性をつかみ、その特性に合った方法を見つけて指導しなければならぬのです。私が気をつけていることは、やり方を押しつけるのではなく、特性にあった方法を選手自身に気付かせてあげること。選手が悩んでいる時にこそ、一言助言ができればと思っています。

卒業生 その人に聞く

岡 博子

パラリンピック卓球日本代表コーチ × 岡山大学教育学部卒

北京に続き、ロンドン・パラ五輪に2大会連続で卓球日本代表コーチとして参加。車いす卓球の国内第一人者・岡紀彦選手と結婚。普段は岡山市障害者体育センターに勤務しながら、日本肢体不自由者卓球協会の役員も務め、幅広く障がい者のサポートを行う。



おか ひろこ (47歳)

- ▶1965(昭和40)年 岡山県岡山市出身
- ▶1988(昭和63)年 岡山大学教育学部卒
- ▶1988(昭和63)年 岡山市障害者体育センターに就職
- ▶1989(平成元年) 「障害者スポーツ指導員」初級
- ▶1994(平成6)年 車いす卓球の国内第一人者・岡紀彦さんと結婚、卓球に興味を持つ
- ▶2002(平成14)年 「障害者スポーツ指導員」中級
- ▶2008(平成20)年 北京・パラ五輪に卓球日本代表コーチとして参加
- ▶2012(平成24)年 ロンドン・パラ五輪に卓球日本代表コーチとして参加

「高度な知の創成と的確な知の継承」——。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。



iPS細胞に着目

がん幹細胞はがん組織の中に存在し、制がん剤や放射線にも強い耐性があるため、治療面から重要な研究対象となっている。しかし通常は組織内に数%しかなく、解析・研究を困難にしていた。妹尾教授は実験用のがん細胞株などを使い、がん治療におけるドラッグデリバリーシステムなどを研究していたが、「一般に利用されているがん由来細胞株でしか実験できず限界を感じていた」という。

着目したのはiPS細胞。「何にでも分化するのなら、がん幹細胞も作れるのでは」と考えたのがきっかけだった。がん幹細胞モデルを作ることができれば、必要な時にすぐ実験ができ、未分化な状態からがんができるメカニズムそのものの解明にもつながる。「このメカニズムに切り込まなければ、がんは治せない」と考え、実験を開始した。

がん化誘導する環境

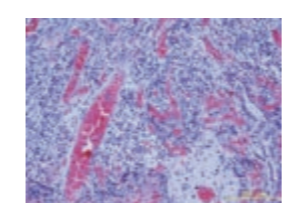
モデル作成手法は、それほど難解な発想ではない。まずはマウスのiPS細胞を正常なスドマウスに移植しても、筋肉やリンパ組織などに分化して正常

がん幹細胞モデル武器に 征圧目指し研究加速

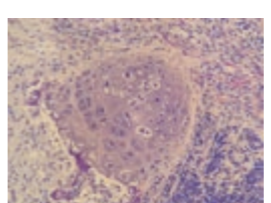
今年4月、iPS細胞を使った一つの研究成果が岡山大学から発表された。がん細胞を生み出す元とされる「がん幹細胞」のモデル作成に世界で初めて成功したという発表に、国内外の研究者や報道機関から大きな注目が集まった。この成果を成し遂げたのは、自然科学研究科(工)の妹尾昌治教授。がん征圧を目指し、従来の手法とは異なる新たな切り口から研究に取り組んでいる。



iPS細胞をマウスに移植してできた悪性腫瘍



悪性腫瘍の組織。非常に多くの血管が形成されている



良性腫瘍の組織

な細胞で作られた良性腫瘍しかできないことを確認。「正常な環境で正常な組織に分化するのは当たり前。がん化には、がんを誘導するような場。微小環境が必要なのは」と考えた妹尾教授は、iPS細胞をがん細胞と一緒に培養したり、がん細胞を育てた培地で培養する実験に着手。がん細胞と一緒に培養した場合には細胞の顕著な増殖や腫瘍化はなかったが、肺がん細胞を育てた培地で培養した細胞をマウスに移植すると、非常に成長の早い悪性腫瘍(がん)ができた。培養したiPS細胞は依然として幹細胞の性質を備えており、できた腫瘍には細胞が旺盛に分裂している事を示す分裂中の染色体が観察できる。血管がたくさんできる。非常に短期間で腫瘍サイズが大きくなる。など種々の特徴があることから、がん幹細胞の割合が非常に高いことも示唆された。最終的に皮膚がん、乳がんなど4種類のがん細胞を培養した培地で同じ実験を行ってほぼ同様の結果が得られたため、がん幹細胞のモデル作成に成功したと結論づけた。

悪性腫瘍は不均一なもの

「がんは難しい、直りにくい病

気」。妹尾教授ががん研究にこだわる根底には、小学5年の時に母親をがんで亡くし、その時に抱いた思いがある。生命現象の謎を研究するため、生物工学分野が学べる大阪大へ進み、製薬会社勤務を経て1992年に岡山大学に着任。制がんを最終目標に、本格的にがん研究に取り組み始めた。

今回の成果を通じ、悪性腫瘍の持つ不均一性をあらためて認識したという妹尾教授。腫瘍は均一な組織ではなく、がん幹細胞といえども一種類とは限らない。細胞は置かれた場所や周囲の細胞に影響を受けてさまざまなに変化し、分化して「一つの社会」を構成する。「がん組織を不均一なもの」と積極的にとらえてこそ、さまざまながん治療法を組み合わせ、新たな治療・研究戦略を立てられるのではないかと言う。いまだに人類はがんとの戦いに負け続けている現状。妹尾教授は「がん幹細胞モデルを手に入れたことで、がん根治は不可能ではないと感じている。多くの人を救うために、ぜひがん征圧の方法を開発したい」と力を込める。

妹尾 昌治

自然科学研究科(工) 教授

- SENO Masaharu (56歳)
- ▶1956年 岡山県岡山市生まれ
- ▶1981年 大阪大学基礎工学部 卒業
- ▶1981年 武田薬品工業株式会社中央研究所 研究員
- ▶1989年 工学博士(大阪大学)
- ▶1992年 岡山大学工学部 助教授
- ▶1995、2000年 米国国立癌研究所 客員研究員(文部省在外研究員)
- ▶2001年 岡山大学大学院自然科学研究科 助教授
- ▶2007年 岡山大学大学院自然科学研究科 教授

研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。

湯川 椋也

医学部医学科4年

YUKAWA RYOYA



三俣診療班は、北アルプス最奥部の三俣蓮華岳（標高約2500m）の診療所にて、登山者の健康と安全を守る診療活動を行うボランティア団体。現在、岡山大学、香川大学の学生とそのOBである医師、看護師が主に活動を行う。診療所は昭和39年に岡山大学医学部により三俣山荘に併設され、現在に至るまで毎夏活動を行っている。診療所開設期間は7月下旬から8月下旬頃の約30日間。現在、診療班は全7班で構成され、そのうち4班が岡山大学、3班を香川大学が担当。開設中の診療所には基本的に毎日、医師1人、看護師1人、学生3〜5人が常駐し、主に捻挫のケア、疲労、高山病などの診療を行っている。今夏にはTBS系列で放送されたドラマ「サマーレスキュー」天空の診療所」のモデルとなり大きな注目を集めた。

現在、三俣診療班には、1〜6年生の岡山大学約20人が所属。診療所開設シーズン以外にもミーティングや勉強会を行い新入部員向けに大山で登山の練習を実施するなど、準備を怠らず夏の診療に備えている。

夏山で診療活動従事 ボランティア団体「三俣診療班」



▲診療室の一角で医療器具を消毒

「山に診療所があるということ、登山者にとって、ひとつの安心になるのではないかと話すのは、「三俣診療班」岡山大学学生代表の湯川椋也さん（医学部医学科4年）。湯川さんには、登山者のけがや病気を治す手助けをしたい、という強い思いがある。

「医学部に入ったのだから、それに関係した活動がしたい」と思っていた湯川さん。三俣診療班で活動していた先輩から「大学にいてだけではできない、多くの特殊な体験ができる」と聞いて興味をわき、2年生で入部。登山経験はなかったが、先輩から山の上の景色の素晴らしさを聞き、実際に登ってみたいと思ったことも大きききっかけとなった。

初めての三俣蓮華岳登山。「いろいろな前知識を持って登ったが、実際に登ると何から何まで新鮮だった」と湯川さん。遥か遠くまで見渡せる景色に「山ってこんなにいい所なんだ」と強い印象を受けたという。一方で、初めての診療班活動では何をすればよいかわからず、自分の至らなさも痛感したという。

診療班の学生は医師に薬や医療機器を渡したり、器具を消毒するなど補助業務を行う。湯川さんは今夏、



▲山荘の方々と一緒に夕食

る器具が限られるという点で大きく異なる。湯川さんは「将来は山小屋のような特殊環境でも、普段通りの診療ができるような医師になりたい」と話す。

登山者支える山岳診療

先輩医師から経験学ぶ

最終班で約4日間活動。診療ができない分、学生たちは患者さんと積極的に会話して、症状などを話しやすい雰囲気にするなどを大切にしているという。診療班の医師は学生時代から活動に関わっている人が多く、登山経験や山での診療の特徴について教わることも多い。「生の診療現場を間近で見ることができると、非常に良い経験。将来医師になった時、ここで見たものを活かせたら」と話す湯川さん。山岳診療は、診療自体は一般の診療と特別変わらないが、使え



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
文学部人文学科1年
鹿森 沙恵香



▲学都について考えたシンポジウム



▲学都を担う学生たちとともに

岡山大学地域総合研究センターは11月6日、フランス・ストラスブールの事例を基に大学と地域の協働のまちづくりを学ぶ「第1回国際学都シンポジウム」学都とは何か?—ストラスブールの挑戦—を、創立五十周年記念館で開催した。

岡山大学では森田潔学長が「学都岡山」構想を提唱しており、同センターが中心となり学都モデルとしてストラスブールを研究している。

シンポジウムでは、ストラスブールのロベルト・ヘルマン第一助役が基調講演。都市と大学が一体となったまちづくりを行いながら経済戦略においても協働し、都市全体

の成長を目指していることを紹介した。ストラスブール政治学院のシルヴァン・シルマン院長も講演し、欧州公共行政連合の設立を通じて、国・地方公共団体・高等教育機関の連携による人材養成が実現していると説明した。

講演後は荒木勝理事（社会貢献・国際担当）を進行役に、「ストラスブールのまちづくり」の著者であるヴァンソン藤井由実さんを交えて、ヘルマン氏、シルマン氏が会場の参加者と対話し、「学都」を実現させるまちづくりの方策について考えた。

TOPICS 2

Okayama University

大学と地域の協働とは 「第1回国際学都シンポジウム」開催

TOPICS 3

Okayama University

肺移植100例を達成 岡山大学病院が国内初

岡山大学病院で11月12日、脳死移植を含め100例目となる肺移植手術が行われ、無事成功した。1998年に同病院が日本初の肺移植となる生体部分肺移植に成功して以降、100例達成は国内の医療機関初、最速となる。

今回の手術は、閉塞性細気管支炎の10歳代男性に対し、ドナー（臓器提供者）である母親の右片肺を移植する生体肺移植。呼吸器外科（三好新一郎教授）が担当となり、同科肺移植チームの大藤剛宏准教授が執



▲100例目の肺移植手術の様子=11月12日

刀。総勢約30人の手術チームで午前10時半に手術を開始し、約6時間後の午後4時38分に終了した。

同病院ではその後も肺移植が行われ、12月2日現在で脳死肺移植41例、生体肺移植61例の102例を実施。手術後の5年生存率は82%で、世界平均の50%（国際心肺移植学会データ）を大きく上回る。100例目の手術後に会見した三好教授と大藤准教授は「100例は通過点の一つ。今後も移植医療を推進したい」と述べた。



トークショーを行う東川氏▶



◀ピブリアバトル



TOPICS 1

Okayama University

母校との絆を再確認 ホームカミングデイ2012開催

岡山大学は10月20日、卒業生を招いて大学との絆を深めてもらうイベント「ホームカミングデイ2012」を開催した。訪れた卒業生たちは旧友や恩師と思い出話を花を咲かせ、現役学生と交流するなど、懐かしい母校でのひとときを楽しんだ。

メイン会場の創立五十周年記念館では、卒業生ら約200人を迎え歓迎式典と全学同窓会総会を開催。特別企画として、法学部卒業生であり、「謎解きはディナーのあとで」で第8回本屋大賞を受賞した作家・東川篤哉氏によるトークショーも行われ、大学時代や執筆中のエピソードなどが披露された。東川氏や学生、教職員が推薦本を紹介し合う「ピブリアバトル」もあり、会場は大いに盛り上がった。

記念館周辺では、飲食店など



▲卒業生の店



▲卒業生による陶芸作品の展示販売

を運営する卒業生らが、出張出店。陶芸や木工作品などを専門とする工芸研究室卒業生・在学生の作品展示やワークショップも行われた。施設公開や教員・卒業生による講演会、半田山森林散策ツアーなど学部ごとのイベントも開催。応援団総部や「うらじゃ」チームの演舞、茶道部によるお茶席、学生ガイドによるキャンパスウォークツアーなどもあり、多くの現役学生が卒業生らを歓迎した。

ホームカミングデイは来年も開催予定。さまざまなイベントが企画されますので、卒業生だけでなく、現役学生、地域の方、岡山大学志望の高校生など多数のご参加をお待ちしております！

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

9 September

11日 地域医療人育成センターおokayama (MUSCARTUBE) を鹿田地区に開所



12日 中国科学院昆明植物研究所の副所長らが森田学長を表敬訪問

19~23日 縄文時代の暮らしを探るキャンパス発掘成果展を創立五十周年記念館で開催

20日 定例記者発表を開催

20日 教育改善について教職員・学生が討議する全学教員研修「桃太郎フォーラム」を実施

21日 「岡山大学・フエ工科大学院特別コース」第6期入学式をベトナム・フエ工科大学で挙



20日 平成24年度秋季岡山大学学位記授与式を挙

28日 華東政法大学副学長らが表敬訪問

10 October

1日 大学院医歯薬学総合研究科と国立感染症研究所が連携大学院を設置

1日 大学院医歯薬学総合研究科と国立長寿医療研究センターが連携大学院を設置

10

9日 平成24年度岡山大学大学院秋季入学式を挙



13日 臓器移植対策の推進に功績があったとして、横野病院院長に厚生労働大臣感謝状が贈呈される



13日 医学部・歯学部が献体された方々を慰霊する解剖体慰霊祭を挙

18日 ミャンマー保健省との交流協定締結10周年を記念して、同省の医師2人が学長表敬訪問

19日 セネガルの教育関係者が本学で授業研究を学ぶ研修を開始

20日 ホームカミングデイ2012を開催

22~23日 国際シンポジウム「光合成システムの構造とダイナミクス」を開催

23日 米国のピッツバーグ大学、チャタム大学と大学間協定を締結



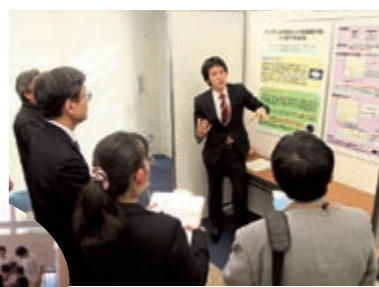
24日 学会等が制定する賞を受賞した学生を顕彰する「学会賞等受賞者表彰式」を挙

25日 定例記者発表を開催

30日 アメリカの科学誌「Science」のエディターが講演

11 November

2日 最先端研究を紹介する「岡山大学知恵の見本市2012」を開催



3~5日 岡山大学祭(鹿田祭)を鹿田地区で開催

6日 第1回岡山大学国際学都シンポジウムを開催



10~11日 第36回収穫祭・農学部フェアを開催

10~25日 池田家文庫絵図展「日本六十余州図の世界」(附属図書館など主催)を岡山シテイミュージアムで開催

12日 岡山大学病院で国内の医療機関初となる100例目の肺移植に成功

14日 独立行政法人医薬品医療機器総合機構と連携大学院協定を締結



23~25日 岡山大学祭(津島祭)を津島地区で開催



28日 前文部科学事務次官の清水潔氏が来学

29日 定例記者発表を開催

12 December

1日 法務研究科に、岡山大学法科大学院弁護士研修センターを設置

研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の森田学教授の研究グループは、水素水の摂取に歯周病を予防する効果があることを動物実験で、世界で初めて証明した。本研究の成果は、水素水の摂取などで全身の抗酸化力を高めることも歯周病の予防に効果的であることを示唆している。ヨーロッパの歯周病専門雑誌「Journal of Clinical Periodontology」に掲載。(9月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の松本卓也教授らの研究グループは、実験室で細胞の塊から骨様組織を作製することに成功した。この骨様組織は骨再生に向けた新しい移植材、あるいは骨ができる過程を検討するための研究ツールとして有望。イギリス王立化学会発行科学誌「Integrative Biology」オンライン版に掲載。(9月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の工藤一貴助教、野原実教授らの研究グループは、ニッケルの化合物に少量のリンを混ぜると結晶が柔らかくなり、電気抵抗がゼロになる超電導へ移行する温度が5倍以上に上昇することを突き止めた。送電線などへの応用が期待できる高温超電導材料の開発に進展が望める。米物理学会速報誌「Physical Review Letters」オンライン版に掲載。(9月・定例記者発表)

■資源植物科学研究所の佐藤和広教授らの研究グループが参加した国際コンソーシアムは、オオムギの51億個の塩基からなるゲノム塩基配列の詳細な解読に成功した。本成果により、オオムギのゲノム情報を利用した育種が可能になり、病害抵抗性や多収性等を目標とした品種改良の加速化が期待される。英国科学雑誌「Nature」に掲載。(10月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の宮地弘幸教授らの研究グループは、苔類に分布する環状ヒスビベンジル誘導体の中に、抗MRSA薬として汎用されているリネゾリド並みに強力な抗菌活性を示す化学物質としてのリカルティンCを見いだした。「Bioorganic And Medicinal Chemistry Letters」に掲載。(11月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の古田和幸助教らは、樹状細胞の抗原提示能が活性化T細胞によって抑制されることを見だし、そのメカニズムを解明した。自己免疫疾患などの治療法開発への新たな手がかりとなることが期待される。米科学アカデミー紀要オンライン版に掲載。(11月・定例記者発表)

■岡山大学病院産婦人科(平松祐司教授)では、婦人科悪性腫瘍に対するロボット手術を開始した。子宮体癌、子宮頸癌を中心に実施していく予定。本手術は、従来の腹腔鏡でできない操作ができるため、出血量の減少、患者の術後QOL改善に繋がることが期待される。(11月・定例記者発表)

■資源植物科学研究所の長岐清孝准教授と村田稔教授らの研究グループは、動原体タンパク質を可視化することにより、タマネギの細胞分裂を詳細に描写することを可能とした。科学誌「PLOS ONE」に掲載。(12月・臨時記者発表)

岡山大学公式 Facebook ページを開設しました!

平成 24 年 10 月、岡山大学公式 Facebook ページを開設しました。Facebook ページでは、岡山大学ウェブサイト (<http://www.okayama-u.ac.jp/>) に掲載されたニュース、イベント、報道発表の情報を中心に発信しています。お気に入りの記事を見つけたら、ぜひ「いいね!」ボタンのクリックをお願いします。Facebook ページで皆さんをお待ちしています。

Facebook ページ
<https://www.facebook.com/OkayamaUniversity>



岡山大学生協同組合



OKAYAMA UNIV.

とコラボ

岡山大学のブランドイメージ向上を目指し、2012年4月1日に誕生した「コミュニケーションシンボル」。このマークとコラボレーションした新オリジナルグッズの企画・開発に、岡山大学生協が力を入れている。第一弾を4月8日に発売したのを皮切りに、魅力あふれる商品を次々と開発、販売している。

商品の種類は現在約20種。ボールペン(105円)や蛍光マーカー(105円)などの文房具をはじめ、マグカップ(945円)やマフラータオル(1,575円)、Tシャツ(1,575円)といった定番商品は充実の品揃え。シルク生地のネクタイ(4種、各4,725円)はちよつぷり、高級品だが就職

シルクネクタイ▶

蛍光マーカー▲

◀マスキングテープ

新グッズ続々登場!

その他コミュニケーションシンボルを使ったグッズはこちら

▽シャープペンシル.....	105円
▽クリアホルダー.....	84円
▽合格御守鉛筆(3本入).....	210円
▽多機能ペン(4+1 LIGHTペン).....	525円
▽マグネットクリップ.....	525円
▽マグネットパー.....	630円
▽デジタル電波時計.....	2,100円
▽メタルキーホルダー.....	945円
▽手提げ紙袋.....	157円
▽ポロシャツ.....	2,625円
▽タオルハンカチ.....	525円

「コミュニケーションシンボル」入りのオリジナル包装紙でラッピングもできる。気軽に声を掛けて売り場担当者、生協職員とデザイナーが森田潔学長や学生らの意見を積極的に取り入れ、さらなる新グッズ開発も計画中。どんな商品になるのか、今から待ち遠しい。

活動にもオススメ。おしゃれグッズとして人気のマスキングテープ(367円)でノートを飾れば、勉強にやる気が出るかも。いずれも学内の福利施設「ピーチユニオン、マスカットユニオン、ピオーネユニオン、コジカショップ」で販売している。

▼デジタル電波時計

マグカップ▲

▲タオルハンカチ

商品に関するお問い合わせは
 岡山大学生協同組合ピーチショップ ☎ 086-251-7204 まで



<http://www.okayama-u.ac.jp/>

広告

より良い広報誌を作成するために、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。取り上げてほしい話題、質問したいことなど、何でも結構です。右記連絡先までお寄せください。

発行/岡山大学総務・企画部企画・広報課 〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1
 TEL: (086) 251-7292 FAX: (086) 251-7294 E-mail: www.adm@adm.okayama-u.ac.jp